



## 秋季駐車場研修会参加レポート

### 駐車場編 香港のオクトパスカードシステムについて

アマノ(株) 新市場企画推進部 IT推進課  
課長 菅原 昇

香港島の中心地区で視察したADMIRALTY CAR PARKでは、駐車券の発行が不要（チケットレス）の上に現金支払の必要がない（キャッシュレス）駐車場管理システムを電子マネーのオクトパスカード（Octopus Card）を使って実現していた。

オクトパスカードは、香港で1997年に導入された公共交通機関のプリペイドカードで、日本のソニーが開発したフェリカ（FeliCa）を採用した非接触型ICカードである。この非接触型ICカードの技術は、その後にJR東日本のSuicaでも採用されている。

オクトパスカードは、香港にある『Octopus Cards Limited』（八達通 卡 有限公司）が発行を請け負い、現在では香港市内の人口を上回る1200万枚程が発行され、香港内の鉄道、地下鉄、バス、フェリー、ケーブルカーなど、ほとんどの主要交通機関とパーキングメータのキャッシュレス決済として使用されている。また、交通機関の他に日本の『Edy』などと同じ要領で電子マネーとしてコンビニエンスストア、コーヒーショップ、レストラン、自動販売機、証明写真撮影機、公衆電話などの様々な施設でも導入が進んでいる。

オクトパスカードによる駐車場の入出場処理は、JR東日本のスイカカード（Suica）による改札システムと同様にシンプルでスムーズな運用が行なわれている。

入庫処理は、

駐車券発行機に内蔵されたカードリーダーにオクトパスカードをタッチする。

駐車券発行機は、読取ったオクトパスカードのID及び入庫時間を駐車場管理コンピュータに送信し、ゲートバーを開ける。

出庫処理は、

入口と同様にカード読取機に内蔵されたカードリーダーにオクトパスカードをタッチする。

カード読取機は、読取ったオクトパスカードのIDを駐車場管理コンピュータに送信しする。

駐車場管理コンピュータは、カード読取機より受信したカードIDを基に、その車両の入庫時刻を検索してカード読取機に送信する。

カード読取機は、受信した入庫時刻から駐車料金を計算し、オクトパスカードから駐車料金を引き去り、ゲートバーを開ける。

カード読取機は、オクトパスカードから料金を引き去ったことを駐車場管理コンピュータに送信し、駐車場管理コンピュータがオクトパスカードの売上額をオクトパス社に通知する。尚、オクトパスカードのカードIDだけを利用し、契約車両の定期券として利用しているマンションなどの住居施設の駐車場もある。

上記の様にオクトパスカードひとつで駐車場の入出場及び駐車料金の支払を行えるシステムの利点としては次の事項が考えられる。

駐車場利用者の利便性向上として、利用者は駐車券を取ったり料金を支払ったりする必要が無く、カードをリーダにタッチするだけで出入口ゲートの通行が可能である。

利用者は現金を用意する手間が無く、駐車場管理者は集金工数の削減ができる。

駐車券が必要ない為、消耗材の削減できる。

出口での現金処理が不要となる為、入出庫処理能力の向上が実現できる。上記の通り、利用者の利便性を高めると同時に、オクトパスカードの決済手数料にも依るが駐車場管理者のランニングコストを抑えることが期待できる。

オクトパスカードを導入している駐車場は、現在では約200箇所に達し、既に現金支払いを受けないオクトパスカード専用の駐車場も運営されており、香港の大手駐車場管理会社の多くが導入していることから駐車料金の精算手段として今後も普及されて行くと考えられている。日本でもオクトパスカードのような電子マネーは、ビットワレットのEdy、JR東日本のSuica、スルット関西のPiTaPaなどが既に駐車場へ導入されており、今後は関東私鉄・バスのPASMO、携帯電話の各電子マネーなどが対応して行くと考えられる。しかし、上記のように多くの電子マネーサービスが乱立する日本においては、駐車場事業者は利用者が最も利便性が高い電子マネーが何かを判断して選択する必要がある。現状は選択した個々の電子マネーのカードリーダをすべて精算機に搭載する必要があるが、今後は、ひとつのカードリーダで複数の電子マネーを利用できる環境が整えば、駐車場への電子マネーの普及が促進すると考えられる。

以上